

広報

ししか

ShikaTown

特集

小泉町長が語る

これからの志賀町



志賀町駅伝

第4回 志賀町駅伝競走大会

初優勝を飾った増穂チーム

詳しくは18ページの生涯学習だよりをご覧ください。

INDEX

新町長	2～3
平成20年度 決算の公表	4～5
まちかどルポ	8
情報パーク	14～15
生涯学習だより	18～19
健康カレンダー	22

2009

11

月号

November

No. 51

平成17年9月1日に志賀町と富来町が合併し、新志賀町が産声を上げた。そして、今年9月6日に行われた町長選挙で新たに小泉 勝町長が誕生した。

雇用問題や少子化対策など問題が山積みする中、43歳の若きリーダーは今後の志賀町をどのように発展させ、改革を進めていくのか。

5つの拓く（ひらく）を重点施策に掲げる町長が今後の方針を語った。

新志賀町長

小泉 勝

KOIZUMI MASARU



町民目線での政治

先の志賀町長選挙におきましては、町民の皆様から熱く、力強いご支援をいただき町政の執行にあたらせて頂くことになりました。

まさに身に余る光栄でありますとともに、改めてその責任の重大さを痛感しているところであります。

国においては、政権が交代し、これまでの政策が大きく方向転換して行こうとする折、地方にとつては不安定な状況が続くと思われれます。

このような状況の中で、今後、時代の一時的な流れに左右されることなく長期的な視点で行政改革を進めながら、町政運営を推進していきたいと考えております。

私は、先の町長選挙で実に多くの人達にお会いし、ご意見や期待、希望、喜び、不安、悩みなどのさまざまなお話をお聞きました。

そこで、私が感じたのは「町政は、町民目線で行われるべきだ」ということでした。

町民の目線で必要なもの、不要なもの、不足しているものを判断し、町民の暮らしを第一に考えた町政を行うことで、弱い立場の人達には優

しく、すべての町民に公平で、頑張った人が報われる町づくりを進めていく事ができると考えています。このような町づくりを実現するため、町長談話室を設置し、町民の生の声を聞きながら、幸せを実感できる町づくりを目指し、次の5項目の「拓く」を重点施策として実施していきます。

「拓く」とは、開拓するとか開墾する、開じふさがつていたものが開け広げられるという意味を持ちます。

これから新たな町政を切り開き、新たな視点で行政を推進し、町民の皆様と共に歩む町政の実現を目指すために掲げたものであります。



一 「健全財政を拓く」

財政健全化への取り組みとして、投資的経費を抑制しつつ、全ての事

業の一斉点検を行い、必要なものとうでないものとの判断の中で、事業の中止、縮小、継続を決定し、財政改革への具体的な対策をまとめ、実行していきます。

二 「若者の雇用を拓く」

能登中核工業団地への企業誘致を推進し、新たな企業立地の実現による若者の雇用の場の創出に努めます。

また、短期的には、非常に厳しい雇用情勢が続いている中で、働く機会に恵まれない就職希望者に対して、簿記やパソコン教室、或いは資格取得などの就職支援制度を新設することにより「やる気」を支援します。

三 「地場産業の元気を拓く」

志賀町の有力な地場産業は農業と漁業です。

しかしながら、農業と漁業はともに価格の低迷、輸入品の増加、消費の落ち込みなどによる厳しい経営状況に加え、従事者の高齢化と後継者不足など、それぞれ多くの問題をかかえています。

こうした状態を打破するために、

農商工連携を推進していきます。

素材を提供する側の第1次産業である農業、漁業と、それに付加価値を付けて加工する第2次産業、それを販売する第3次産業の各事業者が互いの強みを活かし、新たな商品開発やサービスを創出するために業種を超えて連携する取り組みを支援し、地場産業はもとより、町全体の産業の活性化を図っていきます。

四 「暮らしの安心を拓く」

笑顔で安心して暮らせる町づくりを進めるため、各地域で懸案となっている課題を速やかに解決する道筋を付けることが必要です。

そのためには、町民の皆様を直接聞いて行政に反映することが欠かせません。タウンミーティングの開催や町長談話室を設置し、町民の皆様から生の声をお聞きしようとするのは、そのためです。

いろいろなご意見を伺いながら、町民の皆様、中でも高齢者にやさしい、高齢者が安心して生活してゆける地域づくりを進めます。

五 「地元を愛する心と基礎学力

を育てる教育を拓く」

子ども達は、かけがえのない町の宝です。

子ども達に将来大きな負担を残さず、大きな可能性を大きく開花させるため、幼児期から小学校低学年までの間に、基礎学力の向上を目指していきます。

また、幼いころから志賀町の伝統文化に触れる機会を増やし、地元への愛着心を育て、ひとりでも多くの子供が地元に着し、町づくりの担い手として活躍してもらいたいと願っています。

こうした5つの「拓く」を重点目標として、町政の推進を図っていきたいと考えておりますので、町民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

